<学校教育目標> 考える　学ぶ　つくる

すずかけっ子

令和８年１０月７日
植野小学校だより７号
児童数　６７７名
発行者　宮澤　和巳

あいさつの輪を植野小から植野地区全体に！



９月16日（水）に第2回学校運営協議会が全員の委員さんが参加し、授業参観日に併せて開催されました。全学級の授業を参観された後、今回は6年生各クラス代表児童4名が参加し、委員さんと児童との話合いが行われました。議題は**「植野地区全体にあいさつの輪を広げよう　～地域と一緒に取り組むあいさつ運動について～」**。それまでに6年生の各学級で植野小学校の児童は、朝の登校時など、交通指導員さんや旗当番の保護者の方々など、地域の皆さんへのあいさつができているか、みんなで振り返り、そこで出た意見もこの場で紹介しました。それらの意見を基に委員の皆さんと6年生児童とのディスカッションが始まりました。**委員の皆さんに温かい声を掛けていただきながら、6年生児童も学級で出された意見以外に、自分の考えや思いをしっかりと伝えることができました。**



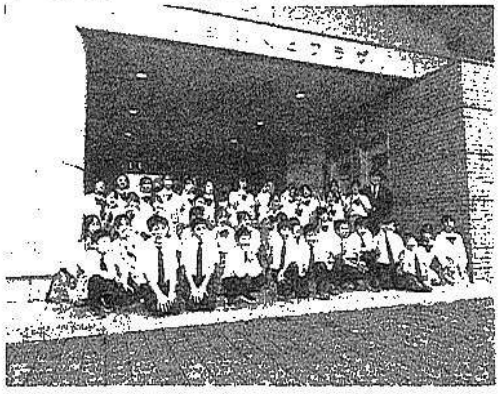
最後に以下のような意見でまとまりました。

☆児童と協議会委員さんとが一緒になって朝のあいさつ運動を行ってみる。そして、いずれは、植野小で行っている「あいさつ運動」を植野地区の「あいさつ運動」にしていけるといいな。

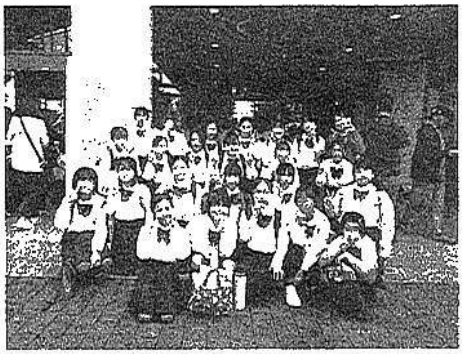
☆「あいさつボランティア」があってもいいよね。

まずは、ご家庭内でも温かなあいさつが交わされますよう、そして、毎朝、旗当番で立哨いただいている保護者の皆様には、いつも子どもたちへの温かなあいさつに深く感謝いたします。

お見事！吹奏楽部、合唱部　佐野市芸術祭学校音楽祭 県大会出場決定！！



吹奏楽部の皆さん



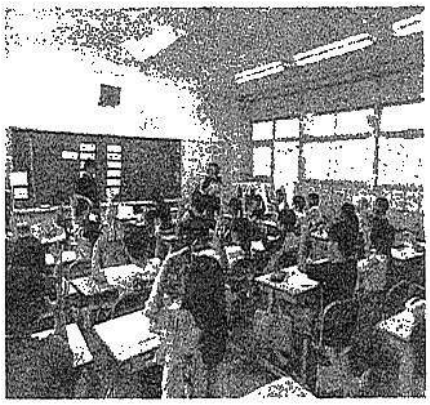
合唱部の皆さん

９月30日（水）に「佐野市芸術祭学校音楽祭」が開催されました。本校からは吹奏楽部、合唱部が参加しました。吹奏楽部は「インカンテーションズ」という曲を演奏し、合唱部は「シーラカンスをとりにいこう」という歌を合唱しました。どちらも、２日前の学校での壮行会での発表からさらにレベルアップし、演奏や合唱の途中からは舞台を楽しんでいるように堂々たる発表でした。演奏し終えて、歌い終えて、会場から大きな拍手が沸き起こる素晴らしい発表でした。見学の態度も立派でした。長い期間ではありましたが、保護者の皆様のご協力、誠にありがとうございました。そして、県大会に向けて、引き続きよろしくお願いいたします。

手話体験教室が開かれました。



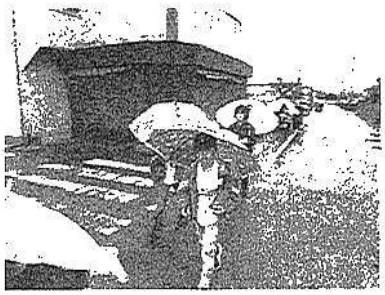
代表してやってみたら



みんなでやってみたら

9月29日(月)に、4年生で手話体験教室がありました。講師の先生方にたくさんの手話を教えていただきました。手話を見せていただきながら、それが何かを当てたり、子どもたちに写真を見せてその手話を考えてもらったりと、子どもたちは楽しく手話を学んでいました。また、自分の名前の手話を一人一人教えていただき、自己紹介ができるようになりました。休み時間や講師の方が帰られるときにも、自分たちから講師の先生に話し掛ける様子も見られ、体験を通してもっと手話について学びたい気持ちが高まっていました。

急な雨の朝、歩いていたら・・・　いろいろなものがみえてくる　～パート2～



夏休み明け、連日のように雨が降っていましたが、先日朝の登校時、途中から急に雨が降ってきたので、かさを持っていない児童が何人か見られました。不肖私も心配はしていたものの、傘を持たずに外に出てきてしまいました。さて、かさを持っていない子達、どうしようかと思っていたら、**同じ班の子どもたちが、自分のかさの中に、「入りなよ。」と笑顔で入れてくれていました。その様子に安心しましたし、嬉しくもなりました。**多少、列が広がってしまいましたが、そこはご勘弁を・・・。不肖私にも近所の方がかさを持ってきてくださいました。子どもたちもかさをさしていない子がいたので、お気持ちだけいただくことにしましたが、本当にありがたい限りです。**朝の登校中には、このようにちょっとしたハプニングもあります。そんなときどうするか、何もないようでいてほんのちょっとだけれども、多少の困難を自力で乗り越えられる力や、人との関わりなど、これから長い人生の中でとても大切なことが積み重なっていく**のかも知れませんね。そして、**雨の日は、ぜひ、靴下一足をかばんに入れてあげて**ください！！

たくさんの品々が寂しそうに待っています・・・。



職員室の一角にあるかごの中に、たくさんのいろいろな種類の落とし物が「いつ自分を迎えに来てくれるのか」と、持ち主様が来てくれるのを待っています。ジャンパー、Tシャツ、帽子、ハンカチ、髪結い用のゴムなどなど。名前が書いてあれば届けることもできますが、ここにあるものは書いてないし、書ける物ばかりとは限りません。やはり、自分の持ち物には責任をもつ、そしてずっと使えるように大切にする、このことが大切になってきますね。金額の大小ではなく、自分の分身でもある自らの持ち物に愛着を持っていくことが、自分のことを大切に思う気持ちにもつながっていくのかもしれませんね。

「早く、迎えに来て～」